

2021 年日本演劇学会研究集会「新ドラマの現在」

12月4日(土)

	ルーム1 TS (テクニカル・サポート)：井上 由里子 (静岡文化芸術大学)	
13:00—13:20	開会挨拶 会長 永田 靖 (大阪大学) 担当校挨拶 岡本 淳子 (大阪大学) 大阪大学箕面新キャンパス紹介ビデオ	
13:30—15:30	担当校主催シンポジウム 女性、ドラマ、つながり—絡まらず、けれど解けず— 阿南 順子 (関西大学)：司会 西尾 佳織 (鳥公園 劇作家・演出家) 佐藤 里野 (東洋大学) 森岡 実穂 (中央大学)	
15:30—15:45	休憩	
	ルーム1 TS：岡本 淳子 (大阪大学)	ルーム2 TS：木下 耕介 (群馬県立女子大学)
15:45—17:45	パネル① 築地小劇場再考：観客層の拡大・異文化交流・後世への遺産 萩原 健 (明治大学)：司会 伊藤 愉 (明治大学) 熊谷 知子 (明治大学) 稲山 玲 (専修大学)	パネル② ドラマか非ドラマか？—地域市民演劇としての <small>にわか</small> 俄を考える 畑中 小百合 (大阪大学)：司会 佐藤 恵里 (高知県立大学名誉教授) 中野 正昭 (明治大学) 松岡 薫 (天理大学)
17:50-	理事会	

12月5日(日)

	ルーム1 TS:岡田 万里子(桜美林大学)	ルーム2 TS:井上 優(明治大学)	
10:00-12:00	<p>パネル③ アイホール問題を考える</p> <p>瀬戸 宏(摂南大学名誉教授):司会・コーディネーター おおつる 求(伊丹市議員) 小原 延之(演出家、アイホールの存続を望む会代表) 永井 聡子(静岡文化芸術大学) 畑 律江(毎日新聞大阪学芸部)</p>	<p>パネル④ 新WEB版「演劇百科大事典」の可能性</p> <p>赤間 亮(立命館大学) 岩井眞實(名城大学):進行役 佐和田 敬司(早稲田大学)</p>	
12:00-13:00	昼休憩		
	ルーム1	ルーム2	ルーム3
	TS:井上 由里子(静岡文化芸術大学)	TS:井上 優(明治大学)	TS:大林 のり子(明治大学)
	司会 須川 渡(福岡女学院大学)	司会 木下 耕介(群馬県立女子大学)	司会 新沼 智之(玉川大学)
13:00-13:40	<p>①演劇上演の教育的価値づけのための観客の役割に関する考察―「はるちゃんはやっくり歩く」について―</p> <p>花家 彩子(常葉大学)</p>	<p>③『朝日のような夕日を連れて』再考―舞台と観客席のあわいに生まれるドラマ</p> <p>日比野 啓(成蹊大学)</p>	<p>⑤ミヒャエル・クンツェのリブレットに見られるドラマ性―ウィーン版『エリザベート』(2012)における楽曲</p> <p>”Rond-Schwarzer Prinz”の挿入をめぐって</p> <p>松尾 ひかり(明治大学大学院)</p>
13:40-14:20	<p>②Covid-19 が解き放つ能狂言の挑戦と創造:欧米におけるコロナ時代の新たな劇作と教育法</p> <p>ジョナ・サルズ(龍谷大学)</p>	<p>④岡田八千代の『黄楊の櫛』における男性像</p> <p>大串 雛子(明治大学大学院)</p>	<p>⑥「生命存在」を描く―太田省吾作『抱擁ワルツ』を中心に</p> <p>金 潤貞 (早稲田大学坪内博士記念演劇博物館)</p>

14:20-14:30	休憩
	ルーム1 TS:松本 俊樹 (大阪大学)
14:30-15:20	担当校企画:海外劇作家ビデオ講演(字幕付き):スペイン語圏演劇のドラマの現在 フェルナンド・ロドリゲス=アラヤ(コスタリカ、劇作家・演出家) 字幕:仮屋浩子 ファン・カルロス・ルビオ(スペイン、劇作家・演出家) 字幕:岡本淳子
15:20-17:20	担当校主催シンポジウム 現代スペイン語圏演劇におけるトラウマのドラマ化と Verosimilitud (真実らしさ) の追求 岡本 淳子(大阪大学):進行役 仮屋 浩子(明治大学) 岡本 太助(大阪大学)
	閉会挨拶 副会長 井上 理恵(桐朋学園芸術短期大学)